

平成24年度（第66回） 芭蕉祭

【問い合わせ】 企画課 ☎ 22-9621 FAX 22-9628



俳聖松尾芭蕉の業績を称え遺徳を偲ぶ「平成24年度（第66回）芭蕉祭」が、10月12日、上野公園を中心に行われました。

芭蕉翁銅像、文学碑への献花、献菓のあと、上野公園内の俳聖殿前で厳かに式典が行われました。式典は、「芭蕉祭子ども合唱団」による「芭蕉さん」の斉唱で始まり、献詠俳句特選句の披講、懸額除幕、各受賞者への表彰などが行われました。

今年の献詠俳句は、全国各地・世界各国から、一般の部に10,334句、テーマの部に2,406句、児童・生徒の部に26,732句、連句の部に173巻、英語俳句の部に774句の応募がありました。各部門の特選句と一般の部、テーマの部で入選された市内の方の句を紹介します。



一般の部 特選

有馬朗人 選

寒垢離を竟へたる妻を怖れけり
鳴き過ぐる月の雁あり鳳凰堂

総社市 尾関華陽
豊中市 小畑晴子

稲畑汀子 選

どの汗も一生懸命なりしかな
疎ましき梅雨にも诗情そそられて

高松市 永森ケイ子
横浜市 松永朔風

茨木和生 選

一徹な父のあと継ぎ耕せり
雨後の岨流るる霧に朴の花

桑名市 伊藤ひな
西尾市 齋藤朗笛

宇多喜代子 選

稽古海女白粉花を小屋に差す
風花消ゆこの世のものに触れぬまま

志摩市 中條かつみ
西宮市 杉本美佐子

岡崎光魚 選

形代を書く鷹匠の大きな手
鮎漁や夕日残れる波がしら

名古屋市 田辺満穂
伊賀市 下村哲朗

小澤實 選

風紋の上に風紋サハラ灼け
蟪蛄は構へ童は瞬かす

横浜市 磯貝一沙
愛知県 大平和男

鍵和田柚子 選

蒼穹の広きを称へ蓮ひろく
弥陀の手のごとく桜のふぶきけり

岡崎市 小川八重子
香川県 長尾俊彦

金子兜太 選

天職を全うせしと種を蒔く
俺といふ剛構造に夕野分

ブラジル 今野千枝子
尾張旭市 古賀勇理央

倉田紘文 選

信心の七日を鳴いて法師蟬
絵燈籠まはり淋しさつのりけり

別府市 片岡学
津市 大川きよ女

塩田数柑子 選

原発の不安募らせ夏炎ゆる
節電に眠りの浅き熱帯夜

伊賀市 山本志賀
相生市 吉川真貴

棚山波朗 選

しぐれ忌や伊賀七坂に雲の湧き

伊賀市 米野てるみ

児童・生徒の部 特選

〔幼稚園・保育園・小学校一〜三年〕

▼喜多富美 永井みよ 東構東子 福山良子 横田緑市 共選 (五十首順)
 なつのそらあめのじゅんぴをはじめたよ 茨木市天王幼稚園 田村条武
 かまきりののこぎりみたいないなびかり みどり第二保育園 藤岡佑太
 うきわつけてラッコみたいにおよげたよ 府中保育園 吉岡青空
 ひこうきはなびのよこをとんでいく 上野東小一年 おざわはるき
 にげようとばけつのかにがさいいでる 中瀬小一年 みやざきルカス
 どらえもんはなびになつてあがつてる 三田小一年 もりかわさえ
 ぬげがらをあつめてセミの名前知る 花之木小二年 谷ごうき
 カヌーこぎまわすパドルにひかる水 上野西小二年 森口いぶき
 クールビズパパのネクタイなつやすみ 丸柱小二年 福森あおい
 うつむくと川にもうつる大の文字 壬生野小三年 かわいあとむ
 あさがおとメダルの数の日記書く 上野東小三年 竹澤歩里
 夏休みコンパスで書く五りんのわ 新居小三年 山出こうすけ



〔小学校四〜六年〕

▼北村保 北村みち 佐々木経子 西村八洲子 松本ちい 共選 (五十首順)
 夏ぼうし海へ海へと走ってく 秋田県瑞川小四年 川村潤南
 弟とひがさのかげをとりあいに 久米小四年 森岡怜星
 タンポポの種がどこかへいくとちゅう 三田小四年 猪飼力也
 ドアノブに西日のあつさ残ってる 西柘植小五年 福永伶央
 ロンドンも甲子園にも秋の雲 上野西小五年 山形聡城
 雨上がりたいまつもし虫送り 丸柱小五年 高森星
 俳聖殿暑さに負けず旅すがた 上野西小六年 中森颯佑
 空っぽになつてしまった金魚鉢 中瀬小六年 蓮池智徳
 盗塁を決めてひろがる夏の空 府中小六年 北薫月



〔中学校・高等学校〕

▼下村哲朗 谷本昌子 濱地和恵 藤井充子 山村勝子 共選 (五十首順)
 引つ越した友のハガキはねぶたの絵 崇広中一年 竹内亮
 電柱の陰さえ嬉し猛暑かな 緑ヶ丘中一年 大花あかね
 朝早く農薬ヘリの飛ぶ稲田 上野南中一年 大北眞穂
 炎天下変装忍者の外国人 崇広中二年 橋本ひかり
 旅先で暑中見舞を自分宛て 城東中二年 北田将崇
 遠雷や怖がる園児抱きしめる 中間市中間南中二年 川上美沙樹
 もぎたてと手書きの看板梨の店 城東中三年 北萌乃花
 優勝を逃した友の汗とシャツ 阿山中三年 渡邊千愛美
 バレー部の引退試合青嵐 大山田中三年 中深月
 菜の花の風を鞆に登校す 諫早市諫早農業高校一年 峰航平
 暖房の部屋で民話を読み返す 諫早市諫早農業高校二年 山口駿
 せみの声はかなき命の砂時計 上野高校二年 鉢呂美菜

一般の部 入選

有馬朗人 選

国栖奏や飛雪に笛の高しらべ

木興町 森井章恵

稲畑汀子 選

長雨の瀑布の怒濤迫り来る

上野西大手町 山村勝子

潑刺と老い爽やかにありたしや

治田 西田扇女

宇多喜代子 選

水の色水の匂ひもすでに夏

山畑 北村みち

岡崎光魚 選

月代や水音たてて鉄洗ふ

木興町 森井章恵

夕立来て俳聖殿に傘借りぬ

栢植町 中嶋國博

京染師伊賀の紅花愛でて摘む

西明寺 永井みよ

小鳥未る泊瀬の陀羅助商ぐ戸に

緑ヶ丘南町 谷本まさ子

鬼虎魚背鰭を立てて糶られをり

緑ヶ丘南町 松本ちい

解夏の僧伽藍の柩戸を開けぬ

三田 土井陽代

楊梅や伊賀に世阿弥の母の像

三田 西田尚子

止事無き姫御来て摘む紅の花

西山 川口登子

笹百合の雨に一輪よく匂ふ

森寺 橋本千代子

さんざ降りして花栗の香の消えて

島ヶ原 島井節

小澤貢 選

煮沸せる珈琲の濾過布梅雨長し

三田 土井陽代

花藻ゆれ河童の棲める水暗し

三田 西田尚子

戻り梅雨給食堂の大杓子

西山 奥谷かち子

金子兜太 選

クリムトのやうな接吻春ともし

上野桑町 福沢義男

畦草や稲草こえて老のたけ

高山 山島勝年

塩田敦栢子 選

炎暑中脱原発の声虚し

長田 百北千種

遺影の灯貧苦を偲ぶ盂蘭盆会

阿山ハイツ 山森桂花

父祖の田を守る決意の春耕す

馬田 森本禾穂

棚山波朗 選

夏空に白雲一つ俳聖殿

栢植町 富山文夫

展望の伊賀の山並空高し

御代 川崎敦子

石積みは廃寺の跡や片陰り

栢植町 岡島千秋

山城の深き空堀淡竹の子

栢植町 服部登紀子

岩煙草咲く空海の座禅窟

三田 西田尚子

炎天の道の果てなる伊賀古窯

平田 福山良子

青胡桃瀬音高鳴る伊賀郡

西明寺 永井みよ

西村和子 選

かなかなや写経の筆を拭きをれば

栢植町 澤井とき子

桃青の通ひし城の月の能

上野桑町 藤田量子

この風を家宝と思ふ夏座敷

服部町 山中清茂

広すぎる旅館に疲れ籐寝椅子

上野西大手町 藤下恒星

何となく転げてみだし夏座敷

緑ヶ丘南町 山本カヨ子

樽散る眠るライオン威などなし

緑ヶ丘南町 松本ちい

星野椿 選

虚子忌へと花追ふ旅となりけり

佐那具町 西澤与志子

朝風や昨夜の蛍の草叢に

佐那具町 子日康子

約束は花の京都でありしかな

四十九町 井上英子

健やかに老いて幸せ月見草

緑ヶ丘南町 山本カヨ子

蛍舞う返らぬ人の窓灯り

枳川 町井徳子

捨てがたき父の形見の上布かな

印代 森中幸枝

梅雨障子重たく閉ざし浄瑠璃寺

森寺 喜多釉子

正木ゆう子 選

農道具持つ間も無くて夕立くる

川西 金谷みよし

初草や刈るには惜しきものばかり

栢植町 中嶋國博

三村純也 選

翌朝もまだ待ちつづけ余り苗

三田 乾重勝

手裏剣のごとく鮪跳ね滝涼し

三田 西田尚子

宮田正和 選

青柿や看取りに慣れてきし暮らし

上野車坂町 森岡了子

鹿垣の田に沿ふ墳墓夏わらび

下栢植 松本慶子

雨はじき雨を走らせ花菖蒲

栢植町 松尾紀子

夕さりの空まだ青き夏の月

栢植町 中森三津子

七夕の青笹担ぎ父来たる

山畑 山下久美

遠蛙こさぎみに闇降りて来る

上野車坂町 森中香代子

萍を打つ雨芭蕉生家なる

栢植町 服部登紀子

蝸螂の目玉ひかりて生れにけり

栢植町 外山依子

金箔の博仏五百寺涼し

上野忍町 佐々木経子

雲湧けば潮あらがふ夏の海

猪田 福井伶子

三伏の汗の地下足袋濯ぎたり

中栢植 築山八重子

テーマの部 入選

朝涼の二時間と言ふ畑仕事

上郡 藤村淳子

落し水夜更にひびく伊賀の奥

上野忍町 佐々木経子

小流れの水音に夏惜しみけり

栢植町 澤井とき子

水打つて新しき風厨まで

千歳 豊岡はつ子